

福マネット

<発行日>
平成25年1月1日

第5号

「福マネット」とは「福島のケアマネジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言



新年を迎えて

一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 副会長

吉田光子

皆様、明けましておめでとうございます。いろいろと厳しいことも待っていそうな2013年ですが、力を合わせて乗り越えていきましょう。そのためにも福島県介護支援専門員協会が会員の皆様の会として、力を発揮していただけることを祈っております。

さて、昨年末に今年度の介護支援専門員実務研修受講試験の結果が発表され、1月から実務研修が始まります。会員の皆様の近くにも受講される方がたくさんいらっしゃると思います。新しく介護支援専門員に仲間入りする方々に、ぜひ当会への入会を勧めただけますようお願いいたします。

現在厚生労働省において、「介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会」が設置され、議論が交わされていることはすでに前号で、千葉会長がふれられている通りです。会員の皆さんが毎日努力を重ねてきたことがきちんと認められていくのか、必要としているものに合致した仕組みが出来上がるのか、ぜひとも注目していきたいものです。

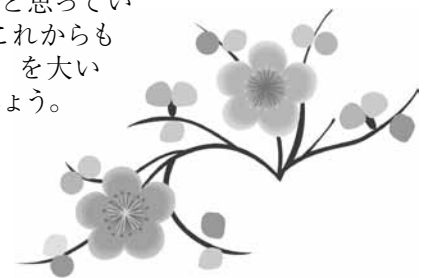
そしてこんな時だからこそ、自分自身の考える『介護支援専門職とは』を明らかにし、そのために自分自身の資質向上に必要なものは何かを考えてみませんか。そして、介護支援専門員として仕事をするのが、目の前にいらっしゃる利用者の生活のどこへ働き掛けていくことなのか、利用者がどうなることを目指しているのかを改めて考えてみようではありませんか。一番利用者の近くで、その方とともにある専門職として、

その存在と機能が広く周知されていってほしいものと願っております。

振り返ってみますと、私が受講した第1回の介護支援専門員実務研修においては、介護保険の概要が決まったばかりで、研修の多くの時間がアセスメント様式の説明に費やされておりました。介護支援専門員がどんな仕事をするのかよくわからなかったといっているのではないでしょうか。それから10年以上が過ぎ、地域に「ケアマネ」という名前を知らない方は少なくなってきました。しかしながら、ケアマネのことを上手に説明したり理解している人は自分たちを含めて、あまり多くはないと言わざるを得ません。

これが、実態を持たない私たちの仕事の難しさであり、個々人の力量や機関によって求められるものが異なってしまう元凶ではないでしょうか。先述のあり方検討会の中でも、直接ケアマネジメントに従事してはいない委員によって、「結果としてのケアプラン」をもとにした検討が行われようとしています。実際には利用者個々の必要性に基づき専門的な見地からプランの提案をしたとしても、経済的理由や利用者の価値観から、そのプランがそのまま受け入れられるとは限りません。様々なやり取りを経て、結果としていきついたものなのです。一方では、なかなか自分で提案をできずに相手の求めるサービスのみのプラン作成や所属機関の利益に沿ったプラン作成を疑われる例もあるのも事実、と言わざるを得ません。

ケアマネ不要論なるものが出るのはどうしてなのでしょう。毎日業務に精励されている会員の皆様がこれからも安心してお過ごしいただけるように、新しい仲間にも魅力ある仕事と想像していただけるように、これからも「ケアマネ必要論」を大いに語ってまいりましょう。



| | | |
|----|-------------------|---|
| 目次 | 巻頭言..... | 1 |
| | 富岡町高齢者等 | |
| | サポートセンター開設..... | 2 |
| | 協会事業の実施状況報告..... | 3 |
| | 外部評価実施状況..... | 4 |
| | 実務研修受講試験結果について... | 4 |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| ハイライト | ◆富岡町高齢者等サポートセンターを紹介 します。 |
| | ◆協会で行っている各事業について報告 いたします。 |
| | ◆介護支援専門員実務研修受講試験結果 の合格率を報告いたします。 |

富岡町高齢者等サポートセンター開所

平成25年1月9日にいわき市に富岡町高齢者等サポートセンターが開所されました。

富岡町から避難し、いわき市の仮設住宅・借り上げ住宅にお住まいの方の総合相談窓口としての機能と共に、要支援・要介護者が利用できるデイサービスも併設されています。

センターでは高齢者だけではなく様々な方の相談を受け、郡山市にある富岡町役場とのパイプ役となりながら、地域のニーズに合った地域交流促進を図っていく役割も担っています。

初めての介護保険 富岡町役場介護保険係 佐藤 恵子

震災から1年を経過した平成24年4月の人事異動で、初めて介護保険を担当することになりました。少しずつ介護保険業務が整い始めた頃でしたが、役場機能そのものを移転しての1年間は、ゼロからのスタートだったことを思うと、いくら介護保険業務に精通していた職員でも、大変だったことは、介護保険1年生の私にも想像できます。4月にバトンタッチした私は、通常の介護保険業務と災害対応の業務の区別さえ分からず、周囲の方々に大変ご迷惑をおかけしました。たくさんの方々のご指導ご協力で、何とか仕事できております。この場をお借りして感謝申し上げます。震災から間もなく2年が経過しようとしております。未だ先の見えない状況の中、介護保険担当1年生からみた現状をお話いたします。

富岡町の避難状況は、1/3が県外に避難しており、北海道から沖縄県まで全国へ散らばりました。2/3が県内に避難しており、その内の半数以上の約6千人がいわき市に避難しています。故郷に近く、気候風土が同じであるいわき市を避難先に希



望する市民がとて多いからです。

介護認定状況ですが、件数が増加し、判定結果で要支援が増えていきます。そ

の理由は、生活不活発だろうと思います。自宅で野菜を作ったり、庭の草むしり、近所のお茶飲み仲間宅へ行く等が程よい生活活動であったのが、今は何もすることがない毎日…町は介護予防事業を展開したくても点在している市民への予防事業が実施できない…そんな状況の中で、要介護にならないよう動き始めた結果が認定件数や要支援判定の増加であり、給付状況で言えば、通所介護や介護予防通所介護の増加であると思います。

家族構成も変わりました。住居環境が変化し、同居が困難になり、核家族化しました。そのため高齢者の独居、夫婦世帯が増加しました。身内が近くにいない世帯は少なくありません。このような高齢世帯の生活支援が今後の課題となってくるだろうと思っています。

2年が経過しても、私たちの避難生活は何も変わらず、なかなか前進できないでおります。まだまだ皆様のご支援が必要です。よろしくお願いいたします。

富岡町の介護保険係連絡先

TEL 0120-33-6466 (代表)



いわき市で活躍されている、ケアマネの方！！ぜひ相談に行ってみてはどうでしょうか？

ケアマネの皆さんがサポートセンターへ様々な相談や情報提供することで、地域のニーズを富岡町役場へ伝えることができます。

富岡町高齢者等サポートセンター

いわき市好間町上好間字道成川原15番地8 電話：0246-38-3123 FAX：0246-36-5111

協会事業の実施状況報告

企画総務部 菊地 健治

企画総務部は、部員1名にて地域協議会事務局の協力をいただきながら、会員管理と会費徴収（口座振替移行手続き）の事務管理を行うこととなっております。また、介護支援専門員受験対策講座を開催し、一人でも多くの方に合格していただき、一緒に活躍する新しい会員の確保につなげられるよう実施しております。

会員管理と会費徴収（口座振替移行手続き）につきましては、スムーズな事務管理ができておらず、地域協議会事務局にご負担をかけている現状です。企画総務部としては、会費の口座振替作業が今後スムーズに移行できるよう、会員の皆様で手続きが済んでおられない方は、協会事務局に提出していただきますように、紙面をお借りしてお願いいたします。

介護保険部 吉田 照子

介護保険部は、7月6日（金）、郡山市民文化センターにおいて、特別養護老人ホーム緑風園施設長、菊地雅洋氏を講師にお迎えし、『人を語らずして介護を語るな～介護サービスの常識を問い直そう～』をテーマに、講演会を実施しました。masaさんの愛称で知られる菊地氏から、利用者の支援に必要な視点や介護・福祉に携わる者としての倫理観や使命感について直接、熱くお聞きし、再確認する機会となりました。当日の参加者は452名でした。

また、7月17日（火）、県農業総合センターにおいて「介護予防支援従事者研修会」を実施しました。介護支援事業所において、介護予防支援の業務に従事する方や、受託している事業所の介護支援専門員等が介護予防サービス計画を作成できるよう、必要な知識の習得と技能向上を図るための研修で、95名の受講があり、当日は7名の講師の方にご協力いただきました。

生涯研修部 杉原 常夫

生涯研修部は、介護支援専門員としての資質を高めるための研修を実施することになっており、今年度は、平成23年3月11日の東日本大震災を振り返り、その時どのような対応をしたのか、今後の対策の資料とするために、「災害対応を振り返る」と題しての研修会を開催しました。後日研修内容をまとめたものを公表いたします。次年度につきましては、①会員研修 ②フォローアップ研修 ③キャリア形成訪問事業を実施していく予定となっております。生涯研修部では研修を更に充実させていく為に部員の増員を計画しております。各地域の方部を通して部員を募った際には是非ともご協力をお願い致します。今後も皆様の要望を聞きながら役に立つ研修を実施していきたいと思っております。



受託事業部 藤江 眞明

受託事業部は、毎年7月から年末にかけて実施される基礎研修、専門研修Ⅰ、専門研修Ⅱ、そして主任介護支援専門員研修を福島県から受託し企画・実施するために設置された部です。2012年度からは新たに二回目更新研修の委託も受けることとなり、全ての研修受講者の総数は1,500名を超える実績となっております。

協会といたしましては、今後も会員である介護支援専門員の皆様のスキルアップに繋がる研修内容を事務局以下スタッフとともに企画していきたいと思っておりますが、研修の実施に当たってはチューター等で是非、会員の皆様のご協力をお願い致します。

地域密着型サービス外部評価事業について

当協会では平成23年度より地域密着型サービス外部評価機関となりました。お申し込みいただいた認知症対応型共同生活介護や小規模多機能型居宅介護の事業所へ訪問調査を行っております。

調査を受けた事業所からは「調査員の方々がケアマネさんなので利用者さんだけでなく職員に対しても気遣いが細やか」「同じ福祉関係の方が調査に来るので比較的リラックスしてお話してきた」「業界の制度や言語に精通しているので質問の内容やご指摘いただけるポイントがとて

もわかりやすく納得できる」といったありがたいお言葉をいただいております。

皆様の所属法人でグループホームや小規模多機能などを運営されている場合は是非、福島県介護支援専門員協会へお申し込みください。(ホームページ<http://www.fcma.jp/> のトップページから申込用紙をダウンロードできます。)



低合格率の
要因は何か?

二年連続で20%を下回る合格率!

～第15回(平成24年度)介護支援専門員実務研修受講試験結果の発表～

受験者及び合格者数

※()内は昨年度のデータ

| 受験者数(人) | 合格者数(人) | 合格率(%) |
|------------------|--------------|----------------|
| 2,622 (2,475) | 399 (317) | 15.2 (12.8) |

仕事と受験勉強の両立の困難さに加え、長年にわたり継続する低合格率により「合格へのモチベーション」が低下したこと、制度改定による「新傾向用語」への対応や、未だに尾を引く東日本大震災の影響からの準備不足が低合格率の要因であるとの報道がなされております。

昨年に引き続き、第16回(平成25年度)の試験においても、本協会では受験対策模擬試験を開催する予定です。ぜひふるってご参加ください。

(参考)職種別合格者数

| 職種 | 人数 | 比率(%) | 職種 | 人数 | 比率(%) |
|-------|-----|-------|--------------|-----|-------|
| 医師 | | | 義肢装具士 | | |
| 歯科医師 | 1 | 0.3 | 歯科衛生士 | 1 | 0.3 |
| 薬剤師 | | | 言語聴覚士 | 2 | 0.5 |
| 保健師 | 7 | 1.8 | あん摩マッサージ師 | | |
| 助産師 | | | はり師 | | |
| 看護師 | 27 | 6.8 | きゅう師 | | |
| 准看護師 | 8 | 2.0 | 柔道整復師 | 1 | 0.3 |
| 理学療法士 | 11 | 2.7 | 栄養士(管理栄養士含む) | 3 | 0.7 |
| 作業療法士 | 9 | 2.2 | 精神保健福祉士 | 6 | 1.5 |
| 社会福祉士 | 35 | 8.7 | 相談援助業務従事者 | 16 | 4.0 |
| 介護福祉士 | 260 | 65.2 | 介護等業務従事者 | 12 | 3.0 |
| 視能訓練士 | | | 合計 | 399 | 100 |

発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会長：千葉喜弘

事務局：郡山市亀田二丁目19番地14号 チャレンジビル2階

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報部：小野 雅信 太田 大 仁井田 義弘 貝沼 勝敏 伊東 靖裕 国分 達弥 渡部 芳博

水戸 幸一 鹿山 奈美 丹内 美樹男 志賀 さちえ 野内 三香子